

聖学院大学総合研究所人間福祉スーパービジョンセンター主催・
SWnet 共催
第17回ピア・スーパービジョン報告

※役職は2015年度現在

2016年2月13日（土）、聖学院大学4号館第一・第二会議室を会場に、「第17回ピア・スーパービジョン」（聖学院大学総合研究所人間福祉スーパービジョンセンター主催・SWnet〔聖学院ウェルフェアネット〕共催）が行われた。午前中（第1部）に講演及びパネルディスカッションを行い、ランチ交流会を挟んだのち、午後（第2部）にスーパービジョンを行った。開会の挨拶は、牛津信忠氏（聖学院大学人間福祉学部長）、及び深瀬久博氏（SWnet）が務められた。牛津氏は、ローマの信徒の手紙第5章3～4節を引用（「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」）され、忍耐は、人間が与えられた力であり、社会福祉において大切な要素である、と語られた。

第1部の講演は、中村磐男氏（聖学院大学こども心理学科特任教授、人間福祉スーパービジョンセンター長）が担当された。パネルディスカッションは、柏木昭氏（聖学院大学名誉教授、人間福祉スーパービジョンセンター顧問）、中村磐男氏、秀村智香氏、片岡優氏がパネラーを務め、相川章子氏（聖学院大学人間福祉学科教授）がコーディネーターを務められた。ランチ交流会を挟んだ後、午後のスーパービジョンでは、冒頭で相川章子氏が導入を担当された後、ピア・スーパービジョンを行った。

午前の講演は、「人生の岐路-20代、30代および40代を顧みて」と題されて行われた。中村氏ご自身の研究者としての半生を、研究機関に携わってきた中での仕事や葛藤などの経験を踏まえつつ、「自己開示」の行為として語られた。また最後には、『鏡の国のアリス』や『ゲド戦記』、『虔十公園林』などファンタジーに属する物語の文章を紹介し、人生を見つめるためのヒントを提供された。

パネルディスカッションでは、柏木氏、聖学院大学の卒業生である秀村氏、片岡氏を交え、ディスカッションを行った。柏木氏は、グループ・スーパービジョンの必要性とその意義とを語られ、また、卒業生の二人は、聖学院大学との出会いや、現場で社会福祉に携わっている者としての生の声を語られた。

昼食の際の交流会は、スーパービジョンを行う

信頼関係を培うのに適切な、温かな雰囲気になった時となった。

第2部の「ピア・スーパービジョン」では、少人数のグループに分かれ、実際にスーパービジョンを行った。初めに相川氏より、ピア・スーパービジョンの定義や意義などが説明された。傾聴する態度を重んじて、それぞれの問題意識を共有しつつ、課題の解決のために言葉を交わしあい、最終的には、皆が活力を持つことができる時になるようにすべきことが確認された。

実際のピア・スーパービジョンの内容は議論の性質上割愛させていただく。一人一人が率直な意見を出しあうと共に、現場で働くソーシャルワーカーが、立場を超えて聞きあい、他者の意見を否定することなく共有することを重んじていたことが印象的であった。グループ発表の後、柏木昭氏が総括を語られた。スーパービジョンの中で、対話の中で生じた違和感をいかに受容しあうかが重要なことであること、ワーカーがクライアントを対象化してはならず常に主体として受けとめるべきこと、等が語られた。出席者21名（講師含む）。

（報告者：五十嵐成見 [いからし・なるみ] 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究所博士後期課程）



上段：牛津信忠教授 深瀬久博代表（SWnet） 中村磐男特任教授